



2023年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年2月14日

上場会社名 株式会社ビーグリー 上場取引所 東
 コード番号 3981 URL https://www.beaglee.com
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 仁平
 問合せ先責任者 (役職名) 経営管理本部長 (氏名) 三吉 達治 (TEL) 03-6706-4000
 定時株主総会開催予定日 2024年3月28日 配当支払開始予定日 2024年3月29日
 有価証券報告書提出予定日 2024年3月28日
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年12月期の連結業績(2023年1月1日~2023年12月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期	19,080	2.0	1,496	△14.7	1,440	△10.4	689	3.7
2022年12月期	18,713	0.4	1,755	30.5	1,608	33.8	664	49.4

(注) 包括利益 2023年12月期 689百万円(3.7%) 2022年12月期 664百万円(49.4%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2023年12月期	114.74	114.11	10.4	7.7	7.8
2022年12月期	111.34	110.31	11.1	8.4	9.4

(参考) 持分法投資損益 2023年12月期 一百万円 2022年12月期 一百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年12月期	18,384	6,953	37.8	1,153.25
2022年12月期	19,039	6,314	33.2	1,052.91

(参考) 自己資本 2023年12月期 6,953百万円 2022年12月期 6,314百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2023年12月期	1,862	△176	△1,078	4,825
2022年12月期	2,379	△244	△1,461	4,217

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2022年12月期	—	0.00	—	12.00	12.00	71	10.8	1.2
2023年12月期	—	0.00	—	15.00	15.00	90	13.1	1.4
2024年12月期(予想)	—	0.00	—	17.00	17.00		11.1	

3. 2024年12月期の連結業績予想(2024年1月1日~2024年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	20,118	5.4	1,846	23.4	1,804	25.3	925	34.3	153.52

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数

2023年12月期	6,263,986株	2022年12月期	6,236,342株
2023年12月期	234,706株	2022年12月期	238,985株
2023年12月期	6,006,454株	2022年12月期	5,968,136株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 経営成績等の概況（4）今後の見通し」をご覧ください。

（決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法について）

当社は、2024年2月15日（木）に機関投資家及びアナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。当日使用する決算説明資料は、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	4
(4) 今後の見通し	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	4
3. 連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 連結貸借対照表	5
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	7
(3) 連結株主資本等変動計算書	9
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	11
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(表示方法の変更)	12
(セグメント情報等)	12
(1株当たり情報)	15
(重要な後発事象)	15

1. 経営成績等の概況

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度の末日現在において判断したものであります。

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度における日本経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、感染症の分類も5類感染症へ移行し、国内外での人流も回復するなど、感染症対策と経済活動の両立により、社会経済活動の正常化が進みつつあります。一方で、緊迫した世界情勢に加え、不安定な円相場やインフレによる経済停滞が懸念され、依然として不透明な事業環境が続いております。

当社を取り巻く事業環境は、紙の出版市場が縮小している一方で、電子出版市場は継続的に拡大しており、インプレス総合研究所「電子書籍ビジネス調査報告書2023」によると、2023年度の成長率は8%程度になると予測されており、今後も電子書籍及び電子コミックの市場規模はゆるやかな拡大が続くことが予想されております。

このような市場環境の中で、プラットフォームセグメントにおいては、コミック配信サービス「まんが王国」のブランド構築に注力しつつ効率的な投資を、コンテンツセグメントにおいては、継続的なデジタル成長による安定的な利益創出を実行しました。

さらに、コンテンツプロデュースカンパニーとしての機能強化や成長加速のため、2021年11月に資本業務提携契約を締結した日本テレビ放送網株式会社（以下、「日本テレビ」という。）との協業案件を継続的に推進いたしました。

これらの結果、当連結会計年度の売上高は19,080,733千円（前年同期比2.0%増）、営業利益は1,496,908千円（前年同期比14.7%減）、経常利益は1,440,459千円（前年同期比10.4%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は689,204千円（前年同期比3.7%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(プラットフォームセグメント)

プラットフォームセグメントの主力サービスであるコミック配信サービス「まんが王国」においては、ユーザーの訪問・定着・課金の流れを促し、課金者数と顧客単価を上げるべく、お得感を訴求するキャンペーンや幅広いユーザー層獲得のための販売促進活動を積極的に行いました。これに加え、原作付きのコミカライズ作品や異世界ファンタジー等の人気ジャンル作品といった“ここだから読める”作品の創出に注力した結果、「まんが王国」の売上高は前年同期比3.2%増となりました。

また、国内コミック配信事業で培ったノウハウを生かし、諸外国の中でも、特に拡大が予想されている北米の電子コミック市場において、2023年6月に北米向けコミック配信サービス「yomoyo（ヨモヨヨ）」の提供を開始いたしました。

小説投稿サービス「ノベルバ」においては、投稿作品を原作としたコミカライズ・メディアミックス展開を推進するため、アプリ利用者数及び投稿作品数の増加を目的とした施策の実施や小説コンテストを開催いたしました。さらに、オリジナルIPの創出を目的に、イベント関連事業や音楽・映像関連事業等を多角的に展開する株式会社アミューズとの協業を開始し、最初の取り組みとして、「ノベルバ」内にて『目指せメディアミックス！「現代恋愛×ファンタジー」小説コンテスト』を開催いたしました。

日本テレビとの取り組みにおいては、「まんが王国」にて昨年末より連載を開始した漫画家発掘ドキュメントバラエティー「THE TOKIWA」発のコミカライズ作品「ようこそ！パラダイス劇場へ」の電子コミック版が完結し、2023年8月に紙書籍を販売いたしました。

利益面においては、売上高が増加した一方で、広告宣伝費を中心とした営業費用が前年同期比で増加いたしました。

これらの結果、当セグメントの売上高は12,563,854千円（前年同期比2.7%増）、営業利益は585,371千円（前年同期比4.4%増）となりました。

(コンテンツセグメント)

コンテンツセグメントにおいては、デジタルコンテンツを中心に、発刊点数の増加、電子書店ごとの特性や読者ニーズに沿った販売促進活動を積極的に行いました。また、紙出版においては、紙出版市場の縮小を鑑み、配本管理及び価格設定等のコストコントロールを実施いたしました。

デジタル出版においては、読者の嗜好性に合わせたコンテンツの創出とジャンルの拡大を推進し、SNSや動画プラットフォームを活用したプロモーションを強化した結果、ぶんか社が得意とするBL、TLジャンルを中心とした女性向けコミックジャンルの作品や近年創刊したデジタルコミック誌からの作品の売上が堅調に推移いたしました。これにより、売上高は前年同期比7.9%増となりました。

紙出版においては、BL、異世界ファンタジーを中心にアニメマンガ専門店と連携し、販売施策を推進いたしました。

また、BLコミック誌「GUSH」の20周年を記念したコラボカフェや「GUSH20周年記念展-with LOVE-」の開催といった様々な施策を実行いたしました。他方、配本数のコントロール及び雑誌の隔月化や休刊を実施した結果、売上高は前年同期比11.6%減となりました。

このほか、ぶんか社の人気グルメ漫画「半熟ファミリア 腹ペコ兄妹の熟成レシピ」が日本テレビホールディングス株式会社の子会社である株式会社日テレ アックスオン制作にてテレビドラマ化いたしました。また、2023年6月には、ぶんか社刊の「お姫様クラブ」がフジテレビ系の番組内にて映像化されました。

利益面においては、主に紙出版収益の減少に加え、積極的な編集人材の採用により、営業費用が前年同期比で増加いたしました。

これらの結果、当セグメントの売上高は6,676,276千円(前年同期比0.7%増)、営業利益は910,956千円(前年同期比23.7%減)となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

(資産)

当連結会計年度末における資産合計は18,384,958千円となり、前連結会計年度末に比べ654,974千円減少しました。

流動資産は9,009,196千円となり、前連結会計年度末に比べ201,429千円増加しました。これは主に、売掛金が340,389千円、未収還付法人税等が100,748千円減少した一方で、現金及び預金が607,517千円増加したことによるものです。

固定資産は9,375,761千円となり、前連結会計年度末に比べ856,413千円減少しました。これは主に、無形固定資産が839,933千円減少したことによるものです。

(負債)

当連結会計年度末における負債合計は11,431,715千円となり、前連結会計年度末に比べ1,293,524千円減少しました。

流動負債は8,466,504千円となり、前連結会計年度末に比べ210,099千円減少しました。これは主に、支払手形及び買掛金が126,484千円増加した一方で、未払金が69,459千円、未払法人税等が69,943千円、未払消費税等が139,364千円、契約負債が72,452千円減少したことによるものです。

固定負債は2,965,210千円となり、前連結会計年度末に比べ1,083,425千円減少しました。これは、長期借入金が1,020,000千円、繰延税金負債が63,425千円減少したことによるものです。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産合計は6,953,242千円となり、前連結会計年度末に比べ638,550千円増加しました。これは主に、利益剰余金が616,074千円増加したことによるものです。

この結果、自己資本比率は、37.8%となりました。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は4,825,497千円となり、前連結会計年度末に比べ607,517千円増加しました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における営業活動においては、税金等調整前当期純利益1,440,459千円から、主な加算項目として、減価償却費423,202千円、のれん償却額590,649千円、売上債権の減少額346,554千円、仕入債務の増加額126,484千円等がありました。これに対して主な減算項目として、未払又は未収消費税等の増減額139,364千円、未払金の減少額70,086千円、契約負債の減少額72,452千円、法人税等の支払額768,513千円等がありました。

この結果、獲得した資金は1,859,715千円（前年同期は2,379,313千円の獲得）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における投資活動においては、主な資金減少要因として、無形固定資産の取得による支出154,450千円等がありました。

この結果、使用した資金は173,689千円（前年同期は244,959千円の使用）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における財務活動においては、主な資金減少要因として、長期借入金の返済による支出1,020,000千円、配当金の支払額71,750千円等がありました。

この結果、使用した資金は1,078,509千円（前年同期は1,461,664千円の使用）となりました。

(4) 今後の見通し

当社グループは、「固定観念にとらわれる事なく、新しい発見と進歩を求め続ける」という理念に基づき、「コンテンツプロデュースカンパニーとしての成長」という中期経営計画を掲げ、実行してまいりました。

プラットフォームセグメントにおいては、グループ成長を支える基盤としての「まんが王国」の安定成長に注力いたします。引き続き、新規ユーザーの獲得のための効率的なプロモーションを実施し、「お得意No.1」戦略により課金意欲の高いロイヤルカスタマーへの育成を行います。また、オリジナル作品の連載の他、新規許諾及び先行配信タイトルの獲得を推進し、“ここだから読める”作品を拡充することで差別化を図ってまいります。

コンテンツセグメントにおいては、読者の嗜好の変化や配信媒体の特性をいち早く捉えたコンテンツの制作体制を強化し、主力ジャンルである女性向けコンテンツに加え、ライトノベル、ライトTL、ライトレディースといったより幅広い読者を対象としたジャンルの作品を創出することで、デジタル売上の更なる成長に努めてまいります。一方で、紙出版売上においては、紙出版市場の縮小を鑑み、配本管理及び価格設定等のコストコントロールを徹底してまいります。

以上を踏まえ、2024年12月期の通期業績見通しについては、売上高は20,118百万円（前年同期比5.4%増）、営業利益は1,846百万円（前年同期比23.4%増）、経常利益は1,804百万円（前年同期比25.3%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は925百万円（前年同期比34.3%増）を予想しております。

なお、第2四半期業績予想につきましては、広告市況や紙出版事業における返品等の状況変化が当社グループの業績に与える影響が大きいことから、当連結会計年度より開示を控えさせていただきます。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、国内の同業他社との比較可能性を考慮し、日本基準を適用して連結財務諸表等を作成しております。なお、国際財務報告基準（IFRS）の適用につきましては、今後の海外事業の状況や国内外の諸情勢を踏まえ、随時検討してまいります。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,217,980	4,825,497
受取手形	36,910	30,745
売掛金	4,341,938	4,001,549
商品及び製品	57,759	58,552
貯蔵品	793	623
前渡金	2,589	8,097
前払費用	48,218	67,510
未収入金	7,313	7,853
未収還付法人税等	105,588	4,839
未収消費税等	—	10,565
その他	480	1,091
貸倒引当金	△11,817	△7,729
流動資産合計	8,807,757	9,009,196
固定資産		
有形固定資産		
建物	14,662	14,662
建物附属設備	70,634	75,012
工具、器具及び備品	149,020	147,433
減価償却累計額	△165,549	△168,060
減損損失累計額	△1,602	△1,602
有形固定資産合計	67,164	67,444
無形固定資産		
のれん	8,919,020	8,328,371
ソフトウェア	191,638	127,602
コンテンツ資産	273,834	248,578
ソフトウェア仮勘定	2,298	639
コンテンツ資産仮勘定	4,319	3,370
著作権	590,000	432,666
その他	1,282	1,232
無形固定資産合計	9,982,395	9,142,462
投資その他の資産		
敷金及び保証金	108,492	108,492
繰延税金資産	54,292	37,380
その他	19,830	19,981
投資その他の資産合計	182,615	165,854
固定資産合計	10,232,175	9,375,761
資産合計	19,039,932	18,384,958

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,310,535	3,437,019
短期借入金	2,000,000	2,000,000
1年内返済予定の長期借入金	1,020,000	1,020,000
未払金	463,785	394,325
未払費用	34,785	35,367
未払法人税等	496,755	426,812
未払消費税等	166,692	27,328
契約負債	665,215	592,763
返金負債	417,866	366,313
預り金	35,520	39,295
その他	65,447	127,279
流動負債合計	8,676,604	8,466,504
固定負債		
長期借入金	3,825,000	2,805,000
繰延税金負債	223,636	160,210
固定負債合計	4,048,636	2,965,210
負債合計	12,725,240	11,431,715
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,893,301	1,901,359
資本剰余金	1,892,826	1,900,859
利益剰余金	2,885,192	3,501,267
自己株式	△356,628	△350,242
株主資本合計	6,314,691	6,953,242
純資産合計	6,314,691	6,953,242
負債純資産合計	19,039,932	18,384,958

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
売上高	18,713,173	19,080,733
売上原価	12,086,895	12,532,377
売上総利益	6,626,277	6,548,356
販売費及び一般管理費	4,870,713	5,051,447
営業利益	1,755,563	1,496,908
営業外収益		
受取利息	25	24
受取配当金	87	107
受取返戻金	2,794	2,590
助成金収入	454	—
受取賠償金	—	1,908
その他	496	459
営業外収益合計	3,857	5,091
営業外費用		
支払利息	105,984	51,354
融資手数料	33,962	2,874
消費税等調整額	3,550	4,442
その他	7,677	2,869
営業外費用合計	151,174	61,540
経常利益	1,608,247	1,440,459
特別損失		
減損損失	164,236	—
損害賠償金	1,240	—
特別損失合計	165,476	—
税金等調整前当期純利益	1,442,770	1,440,459
法人税、住民税及び事業税	846,180	797,767
法人税等調整額	△67,919	△46,513
法人税等合計	778,260	751,254
当期純利益	664,510	689,204
親会社株主に帰属する当期純利益	664,510	689,204

連結包括利益計算書

	(単位：千円)	
	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
当期純利益	664,510	689,204
包括利益	664,510	689,204
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	664,510	689,204

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,883,373	1,882,873	2,268,356	△362,955	5,671,647
当期変動額					
新株の発行	9,928	9,928			19,856
剰余金の配当			△47,674		△47,674
親会社株主に帰属する 当期純利益			664,510		664,510
自己株式の取得				△47	△47
自己株式の処分		24	—	6,374	6,399
当期変動額合計	9,928	9,952	616,835	6,327	643,043
当期末残高	1,893,301	1,892,826	2,885,192	△356,628	6,314,691

	純資産合計
当期首残高	5,671,647
当期変動額	
新株の発行	19,856
剰余金の配当	△47,674
親会社株主に帰属する 当期純利益	664,510
自己株式の取得	△47
自己株式の処分	6,399
当期変動額合計	643,043
当期末残高	6,314,691

当連結会計年度(自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,893,301	1,892,826	2,885,192	△356,628	6,314,691
当期変動額					
新株の発行	8,057	8,057			16,115
剰余金の配当			△71,968		△71,968
親会社株主に帰属する 当期純利益			689,204		689,204
自己株式の取得				—	—
自己株式の処分		△24	△1,161	6,385	5,198
当期変動額合計	8,057	8,033	616,074	6,385	638,550
当期末残高	1,901,359	1,900,859	3,501,267	△350,242	6,953,242

	純資産合計
当期首残高	6,314,691
当期変動額	
新株の発行	16,115
剰余金の配当	△71,968
親会社株主に帰属する 当期純利益	689,204
自己株式の取得	—
自己株式の処分	5,198
当期変動額合計	638,550
当期末残高	6,953,242

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,442,770	1,440,459
減価償却費	470,589	423,202
減損損失	164,236	—
のれん償却額	621,597	590,649
支払利息	105,984	51,354
融資手数料	33,962	2,874
売上債権の増減額 (△は増加)	△7,150	346,554
仕入債務の増減額 (△は減少)	253,638	126,484
未払金の増減額 (△は減少)	108,936	△70,086
未払費用の増減額 (△は減少)	△153,027	582
契約負債の増減額 (△は減少)	△7,547	△72,452
返金負債の増減額 (△は減少)	△12,379	△51,552
未払又は未収消費税等の増減額	73,795	△139,364
その他	84,707	30,683
小計	3,180,115	2,679,390
利息及び配当金の受取額	112	132
利息の支払額	△106,321	△51,292
法人税等の支払額	△694,593	△768,513
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,379,313	1,859,715
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△32,382	△19,247
無形固定資産の取得による支出	△212,716	△154,450
その他	138	7
投資活動によるキャッシュ・フロー	△244,959	△173,689
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	5,100,000	—
長期借入金の返済による支出	△6,500,000	△1,020,000
融資手数料の支払による支出	△33,962	△2,874
株式の発行による収入	19,856	16,115
自己株式の取得による支出	△47	—
配当金の支払額	△47,510	△71,750
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,461,664	△1,078,509
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	672,689	607,517
現金及び現金同等物の期首残高	3,545,290	4,217,980
現金及び現金同等物の期末残高	4,217,980	4,825,497

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

連結損益計算書関係

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業外収益」の「還付金収入」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」に表示していた「還付金収入」201千円、「その他」294千円は、「その他」496千円として組み替えております。

連結キャッシュ・フロー計算書関係

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「立替金の増減額(△は増加)」は、重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」に表示していた「立替金の増減額(△は増加)」247千円、「その他」84,460千円は、「その他」84,707千円として組み替えております。

(セグメント情報等)

1 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、当社グループのうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。当社は、事業種類別のセグメントから構成されており、「プラットフォームセグメント」及び「コンテンツセグメント」を報告セグメントとしております。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

「プラットフォームセグメント」は、当社の既存事業であるまんが王国を中心としたユーザー課金ビジネス及びその付帯ビジネス等で構成されております。「コンテンツセグメント」は、当社の子会社であるぶんか社グループの既存事業を中心とした電子書籍、出版及びそれらの付帯ビジネス等で構成されております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部利益及び振替高は市場実勢価額に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報及び収益の分解情報

前連結会計年度(自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計 (注) 2
	プラットフォーム セグメント	コンテンツ セグメント	計		
売上高					
自社配信	11,396,767	—	11,396,767	—	11,396,767
他社配信	408,480	4,027,982	4,436,462	—	4,436,462
紙出版	—	1,987,402	1,987,402	—	1,987,402
その他	431,667	460,872	892,539	—	892,539
顧客との契約から生じる収益	12,236,915	6,476,258	18,713,173	—	18,713,173
外部顧客への売上高	12,236,915	6,476,258	18,713,173	—	18,713,173
セグメント間の内部売上高 又は振替高	363	153,631	153,995	△153,995	—
計	12,237,278	6,629,889	18,867,168	△153,995	18,713,173
セグメント利益	560,882	1,194,157	1,755,040	523	1,755,563
セグメント資産	9,433,790	17,278,270	26,712,061	△7,672,129	19,039,932
その他の項目					
減価償却費	287,594	183,128	470,723	△133	470,589
のれん償却額	274,845	346,752	621,597	—	621,597
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	424,960	31,156	456,116	—	456,116

(注) 1. セグメント利益の調整額523千円は、全社費用及びセグメント間取引相殺消去額であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当連結会計年度(自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計 (注) 2
	プラットフォーム セグメント	コンテンツ セグメント	計		
売上高					
自社配信	11,745,548	—	11,745,548	—	11,745,548
他社配信	389,063	4,354,147	4,743,211	—	4,743,211
紙出版	—	1,688,344	1,688,344	—	1,688,344
その他	428,151	475,477	903,628	—	903,628
顧客との契約から生じる収益	12,562,763	6,517,969	19,080,733	—	19,080,733
外部顧客への売上高	12,562,763	6,517,969	19,080,733	—	19,080,733
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,090	158,306	159,397	△159,397	—
計	12,563,854	6,676,276	19,240,131	△159,397	19,080,733
セグメント利益	585,371	910,956	1,496,327	581	1,496,908
セグメント資産	8,587,068	17,601,249	26,188,318	△7,803,360	18,384,958
その他の項目					
減価償却費	241,442	181,915	423,357	△154	423,202
のれん償却額	243,897	346,752	590,649	—	590,649
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	316,698	15,946	332,644	—	332,644

(注) 1. セグメント利益の調整額581千円は、全社費用及びセグメント間取引相殺消去額であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
1株当たり純資産額	1,052.91円	1,153.25円
1株当たり当期純利益	111.34円	114.74円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	110.31円	114.11円

(注) 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	664,510	689,204
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	664,510	689,204
普通株式の期中平均株式数(株)	5,968,136	6,006,454
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	55,633	33,308
(うち新株予約権(株))	(55,633)	(33,308)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。